第５回（令和４年度第２回）府中市生涯学習審議会会議録

１　日　時　令和４年７月２２日（金）午後４時～５時３０分

２　場　所　府中市役所北庁舎３階第３会議室

３　出席者（敬称略）

⑴　委員１４名

岩久保早苗委員、榎本成子委員、大谷久知委員、木内直美委員、佐野洋委員、島田文江委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、中村洋子委員、長畑誠委員、松浦浩司委員、松木博子委員、福田豊委員、藤原美江委員

※内藤大輔委員欠席

⑵　職員６名

佐藤文化スポーツ部長、鈴木文化生涯学習課長、楠本文化生涯学習課長補佐、武居生涯学習係長、竹川事務職員、山本事務職員

４　報告事項

⑴　配布資料の確認

ア　資料１　第４回府中市生涯学習審議会会議録（案）

イ　資料２　令和４年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
第１回理事会資料(抜粋)

ウ　資料３　文部科学省中央教育審議会答申（概要版）

エ　資料４　文部科学省中央教育審議会答申（抜粋）

オ　資料５　生涯学習センター定期講座一覧（２０２２年度第２期）

カ　資料６　生涯学習センターの講座から発展した団体の例

⑵　前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

⑶　令和４年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会　第１回理事会について

７月１２日（火）に開催された東京都市町村社会教育委員連絡協議会第１回理事会について事務局から説明後会長から報告があった。

５　審議事項

⑴　「学び返し」を進めるための地域人材の活用について

副会長：　審議に入る前に、事務局から審議について、報告がある。

事務局：　これまで諮問事項「学び返しを進めるための地域人材の活用につ

いて」に沿って、主に地域人材の活用の観点から、生涯学習サポーター制度に絞って議論していただいてきました。その中では、「地域人材の掘り起こしや育成が不十分」「グループに属さない個人が使いにくい」といった課題が見えてきました。これらは府中市を取り巻く社会の変化やそれに伴う社会教育・生涯学習の捉え方の変化に、市の制度や実践が追い付いていないことにも原因があります。そこで、今後の議論を深める方向として、ご意見いただきたいことが２点ございます。１つ目は、前回までは生涯学習サポーターに絞って議論いただいてきましたが、実際には、この制度によらずとも学び返しを進めるために地域人材が活動している例もあります。そうしたことも含め、幅広く地域人材の活用という点から議論をいただきたいと考えております。２つ目は生涯学習センターの役割についてです。生涯学習センターは老朽化も進んでおり、市としては施設の更新も検討しなくてはいけない必要も出てきております。つきましては、「学び返しを進めるための地域人材の活用」について必要な生涯学習センターの在り方といった点についてもご意見いただきたいと考えております。自治体が行うべき社会教育や生涯学習といった根本的な理念の部分にもご留意いただき、より一層のご審議をいただきたいと考えております。

会長：　前回までは、地域人材の活用の枠の中で、生涯学習サポーターに焦点をあてて議論してきた。その中で話があったように提供側と需要側の課題が出ていた。本来であれば、本日は、その課題について、より深めていくことを予定していた。しかし、その課題については、結局そもそもの部分で、生涯学習サポーター・ファシリテーターは何のための制度なのか、あるいは何を目指していくものなのかをもう一回確認したほうがいいのではないかと考えるに至った。そこに事務局から話があったように生涯学習センターの役割について見直す必要が出てきているという話があったため、今回と次回の２回にかけて、地域人材をどのように育成や掘り起こしをして、どのように学び返しにつなげていくかという「地域人材の活用」の大枠は変わらないが、生涯学習サポーターに限らずに、府中市の生涯学習センターが今後どのような役割を果たしたらいいのか、といった点について、自由に意見をいただく時間にしたいと思う。そのため、今回の配布資料は、今後の生涯学習についてのものと、生涯学

習センターに関するものが中心になっている。大枠は変わらないが、生涯学習サポーターではなく、生涯学習センターの役割の部分に焦点を置くという事で進めていきたいが、この点について、ご意見等が無いようであれば、このまま進めさせていただく。これまでの話で、生涯学習サポーターの問題点を洗い出したので、その点は当然答申にも加えていくので、これまでの議論が無駄になるわけでなく、より発展した形で、議論できればと思う。本日の進め方についてだが、まず、根本的な社会教育や生涯学習の流れを整理するために、資料３と４の中央教育審議会の答申を用いて、皆さんと共有したいと思う。その上で、生涯学習センターの役割について、話を進められればと思う。

資料３をご覧いただきたい。これは答申全体の概要が書かれている。この中で、一番重要な点としては、表面の上部分「１.地域における社会教育の意義と果たすべき役割～社会教育を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～」というところであると思う。キーワードはその下に書いてある、「人づくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」これが、個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割となっている。これを文章で確認すると資料４の（３）に書いてあるように、個人の成長からお互いのつながりができ、さらにそこから主体的な学びが生まれるという事が書いてある。また、（５）には、「人づくり」の側面について学びの過程を通じて個人の知的欲求が満たされ、生活の改善や、人間としての成長、自己実現につながっていくと書いてある。次に「つながりづくり」については、（６）で住民の学びを通じたつながりの輪の中で、同様の悩みや類似の関心を持つ者同士の助け合いや、異なる意見を持つ他者との対話や議論が生まれる。となっている。そして、（７）は「地域づくり」として、住民相互のつながりや相互に認め合う関係は、生き生きとした地域コミュニティを形成し、地域が直面する様々な課題の解決に向けた住民の主体的な活動を活発化させるための基盤を形成するものとして機能すると書かれている。その他は、学びを学びで終わらせず、持続的な学習活動の循環につなげていくために、行政としては、環境整備に取り組む必要があると書かれている。つまり、前回の審議会でも申し上げたが、元々は、社会教育は公民館運動から、みんなで同じ課題について、勉強

をしていこうという事から始まったが、高度経済成長の後、趣味も暮らしも多様化し、個人の関心もバラバラになり、その中で学びも個人化が進んでいった。ただ、今はその掘り返しというか、個人で学ぶだけではなくて、学びを通じて人と人とがつながっていき、そこからさらに次の学びが生まれ、結果的に地域づくりにつながっていくという考えになってきている。地域づくりというのがいまいち理解が難しいところがあるが、一人からつながりが生まれ、そのつながりから地域をよくすることにつながっていくというようなことを社会教育としては目指すべきでそういった環境を作っていくのは行政の役割ではないかという事であると思う。このことを念頭において、生涯学習センターの役割といった点について、話を進めていきたいと思う。

委員：　以前少し話したことがあるが、外国語を習得するにあたって、従来の講座形式について、言葉やレベルの種類以外に、少し方向を変えて、個人で設定するのは難しい留学生や在住の外国人を入れた懇談会のようなもの生涯学習センターで主催してやってもらえると良いと思う。

会長：　今のお話は、留学生や在住の外国人の方との新しいつながりという点についての話だったかと思う。こういうような形で進めていきたいが、まず、前提として、この進め方について、何か意見があればお聞かせいただきたい。

委員：　中央教育審議会の答申については、正しいことが書いてあると思う一方で、目指すべき目標が上から来ている文章であるなと感じた。結果として、この様な文章で表現できるようになることが本来の意味での生涯学習であるし、自然発生的にそれが起こるべきであって、最初にこの文章があって、それに沿って考えるというのは少し違和感を覚える。それと同時に、この文章で書かれていることは、社会教育という社会の中で行われることを想定しているからこのような書き方だと思うが、この様な土壌ができにくい企業の場合はどうするか、という視点で見たときに、様々な課題を抱えている企業が、それに対して、研修や演習で学んできたことをやれとは直接的には言わない。それが、自然発生的にコンサルティング会社に頼んで、上から指示するのではなくて、社内の社員を集めて、話してもらい課題を見つけて、直しながら、結果的にみんなで考えて売

り上げなどの形で、何か評価できたらというような自然にもっていける力が企業の中でも、地域の中でも必要であると思う。企業の中では、コンサルティング会社に頼めば良かったりすればいいかもしれないが、地域社会では、コンサルティング会社に頼むことは難しい。地域の誰かがそういう役を果たさなければならない。そういうことをうまくできる人が見つかっているか、見つけられるような仕組みになっているかという点も一つの問題であると思う。文化センターあり方検討協議会にも参加しているが、同じ調査を行っても、調査結果が仮説を作るのに使える調査になっているかというと必ずしもそうなっていない。そういったものを直していけるような人がファシリテーターであったりすればいいのだが、府中市の場合はそういった格好になっていない。企業であれば、コンサルの専門の人や、社員の中でそういったことに長けている人がいるかもしれないが、そういうものに倣っていくと、やはりまだまだ地域の社会教育や生涯学習の中で足りないものが多くある。趣味や文化であればいいのだが、地域の課題解決になると最初の段階でつまずいて止まってしまうという感じがしている。この答申が、何を伝えようとしているのかはよくわかるが、目標の姿に行くまでの間に誰が、どうまとめるのかという点にもっと突っ込んでいかないと解決は難しいのではないかと思う。

会長：　地域課題の解決のために何か動きたいと思っても、誰に何を相談したらいいかもわからないし、それの役目が地域コーディネーターなのかファシリテーターなのか分からないが、そういう役割の人材が必要になってくると思うので、そういったこともどんどん意見をいただきたいと思う。

委員：　今の話の中で、企業について言及があったが、どういう意味で企業の話を出したのか良く理解できなかったので伺いたい。

会長：　私の理解では、企業であれば、必要なことについて学ばなければいけない、これについて知りたいとなった時には、研修に社員を出席させたり、企業の中に人材がいて何とかなることがあるけど、地域の中で地域の人が、何か課題を抱えていたり、何か学びたいと思っていたとしてもそれについて、相談する相手もいないし、企業と違って、コンサルティング会社に頼むこともできないので、企業と違うから余計に大変だという一つの例として企業の話を出したのだ

と思うがどうか。

委員：　何か地域の課題があってちょっと集まるときに誰に声をかけるかと地域で考えたときに例えば自治会から大きいマンションの理事会のメンバーを集めたりして考えてもどうしてもいろいろな考えの人がいるので、方向性が合わないことはある。その時に誰がどうやって、その人たちの意見を調整していくか、意見は出るけど、その意見をどう切り貼りして集約していくかと考えたときにそれが足りないというのと、どこで探すかという事が地域の活性化や社会への還元となった時には、手さぐりになってしまうということである。

委員：　言いたいことは理解できたが、すべての企業がおっしゃったような仕事の進め方をしているわけではないので、なぜ企業の具体的な仕事の仕方を出したのかいまいち理解できない。

委員：　例えば企業の中で、大きな課題や命題が出たときに、多くの場合はプロジェクトとして、一つの部や課だけではなくて、横断的に社員を混ぜて人選して進めていく。それによって、社内の課題の解決を図るが、その時に自分たちだけで出来るかというとできないことも多くある。その場合はコンサルティング会社などに頼むことがある。そのコンサルティング会社の担当者は何を持ってくるかというと、膨大な知識や、情報はもちろん、多くの意見をまとめ解決に導く手法を持ってくる。しかし、地域の社会教育という点に話を持ってくると、近所の人にそういう人がいる可能性はほんの僅かで、そういったときに解決に導く筋道や仮説をつくる手法を持っているかいないかでだいぶ違いが出ると思う。社会教育の観点からいうと、下から出てきたものをうまく作るという事が本来の形であるが、その時に企業とは違って、膨大な知識や情報を提供できる人がいないよねという事である。

会長：　企業にもよるが、企業でやっているようなことを地域でやるのはやっぱり難しいという事であったと思う。

委員：　地域には色んな人がいて、知恵を出し合ってやっているので、たまたまこれまでがダメだっただけで、どうなるかは分からない。外から人を呼ばないと何もできないというような意見に取れたので、もっと希望を持って前向きな意見をしていただきたいと思う。また、生涯学習センターの役割についてという事で、皆さん関心があるのだなと思った出来事があったのでお伝えしたい。友人に生涯学

習審議会委員をやっていると伝えたところ、なぜ生涯学習センターでやってないのか、あそこが現場ではないのかと言われたことがある。自分たちで不便な場所であると感じているのではないか。場所的にも駅から距離があるため、今後建て替えなどになった際は移転なども検討してもらいたいといった声もあった。今の場所が悪いというわけではないが、交通の便を考えると不便に感じている人が多いのだなと感じた。

会長：　根本的な部分を共有するために資料３と４を用意したが、今回は今の生涯学習センターの場所もそうだが、やっている中身について、今の時代に合っているのかという事について、お話しいただければと思っている。今日出てきた意見を次回、論点を絞って深めていきたいと考えている。

委員：　府中童謡の会を主宰しており、学習センター講堂でイベントを定期的に開催したが、バスの時刻に合わせて、終了せねばならなく、参加者は慌てて席を立つ。講堂は音も良く、聞きやすい。新たに、発表会をしたいと思ったが、会場費と立地の関係で駅に近いホールで実施することになった。これからの学習センターは、より長く楽しめる館になると良いと思う。例えば、姉妹都市の特産品の販売会をやってみるとか、行きたくなるような場づくりをするべきである。府中市では朝市をやっており、その時に売れ残ってしまい、どうしようかと考え、学習センターの一部を借りて安くして貰ってもらおうと生涯学習センターに相談したが断られてしまった。できないことを前提に話されるので、そこで気持ちが切れてしまったことがある。もっとおおらかで気軽に歓談できるようになってほしい。立川市は、会場使用について、非常におおらかであった印象がある。また、講座についても、一覧を資料として貰っているが、何のための講座なのかというところが違和感を覚えていて、何か違うなと思っている。地域の話もあったが、自分が住んでいる地域では、空き家が多くなってきて地域が崩壊していく中で生涯学習として、どうやって地域を作っていくかという事を根本として、生涯学習センターの役割を考えていくのがいいのではないか。

会長：　今の話の論点として、生涯学習センターを楽しく行ってみたいと思える場所にすべきでもっと使い勝手を良くするべきではないかということと、地域をこれからどうするかという事と生涯学習センタ

ーの役割を一緒に考えていくのが良いのではないかという事だったと思う。

委員：　この審議会で生涯学習センターの役割や在り方について、テーマにしたのは、初めてなのでないかと思うが、これは、一定期間をおいて、定期的にやった方がいいのではないかと思う。指定管理者制度が入っていると思うが、利用者からはどこに意見や苦情的なことを言ったらいいのかが分からないという声が多く結局担当課へという事になってしまう。そういったことを審議会が提案できるようなになればいい。それから基地跡地に色々な施設ができるという話があるようだが、そこと一体になって生涯学習センターを丸め込んで計画していったら使いやすいものができるのではないかと思う。

委員：　文化センターで自主グループとして活動をしている。自主グループは登録している文化センターを安く使用できるが、ルミエール府中や生涯学習センターはそれに比べると使用料は高い。活動している人の中には年金生活者の方が多いので、不満の声が良くでている。生涯学習センターだけが特別扱いと考えている人が多いように感じる。指定管理の方たちがしっかりしているとも言えるが、施設の使用についてはとても厳しくしている。４階の宿泊施設と併用すると安くなるという制度があり、一度利用したことがあるが、お風呂の時間や外出の時間などの制約があったためもうこの制度を利用はやめようという話も出たりした。生涯学習センターの講堂は音を聞くにはとてもいい場所であると思う。自身が参加している自主グループでも講堂で発表会をしたいという話も出ていたが、やはり値段と場所の関係で、府中駅からより近い中央文化センターなどで実施するようになった。施設としてはとても良いものであるため、もっと使い勝手がいいというようなアピールを行い、先ほど話があった他の施設と踏み込んで使えばよりよくなっていくと思うので、今後の生涯学習センターについて、ぜひとも検討していただきたい。

委員：　指定管理者制度になってから特に子ども向けの講座が充実したと感じており、今子育てをしている方がうらやましい。 ただ、ホームページなどを見て、一番欠けていると感じるのは相談事業である。市民活動センタープラッツには窓口があるが、生涯学習センターには相談というところがない。例えば、誰かが、生涯学習として、こういう学習をしたいと思ったときにどこに相談すればいいのか分か

らなくなってしまう。生涯学習サポーターの登録も生涯学習センターではなく市役所に行かなくてはいけないという点も気持ちが悪い。生涯学習センターに社会教育主事がいるのであれば相談事業をぜひ行っていただきたい。資料６で講座から団体に発展した例が書かれているが、団体になった後に団体が継続するための相談などは行っているのか、助成金などが必要となった時に何か案内したりとかできるのか。もう行っているのであればいいが、そうでないのであれば、今後は継続という視点の相談事業を行っていただきたい。また、施設の話では、ホームページで宿泊の空き状況などを掲載しているが、稼働率が低いため、そういった点についても議論が必要であると思う。

委員：　宿泊施設については、友好都市であるオーストリアのウィーン・ヘルナルス区の方が来た時に利用していた。自身の団体でも利用したことがあるが、先ほどの話のように制限が多かったので、それ以降は利用していない。ヘルナルス区へ数回訪問しているため、ヘルナルス区の方が府中に来た時の生涯学習センターの飾りつけを団体として手伝いたいと申し出たところ、すでに花の先生にお願いしており、予算も確保しているとのことで断られてしまったことがある。その後、一度だけボランティアで飾りつけさせてもらうことができ、ウィーンの皆さんに喜ばれた。市民で出来る事は市民で行うのが良いと思った。指定管理のせいか、良いと思い相談してもスムーズに事が運ばないので、つい利用を控えてしまう。窓口の方の市民に向き合う言葉使いや態度等、人材教育も必要に思う。

委員：　個人的には、生涯学習センターはプールぐらいしか利用していないので、施設の利用者としての実感に基づいた意見は言いにくいが、資料３と４の社会教育との関係で、生涯学習センター関して申しあげるのであれば、地域の課題解決と絡めて社会教育を位置づけていると読み取ることはできる。そうすると、その中心施設として、生涯学習センターを位置づけるという方向付けもあるのだなと思った。資料の中で地域コミュニティと書かれているが、これが中々難しくて、コミュニティそのものをどう捉えたらいいかという事も大きな問題であるが、現実問題として、市内にある町内会や自治会との関連で、プログラムを作ることができるのか、そしてそれを具体的に比較したり実施したりするとすれば、今すでに存在して

いる文化センターとの連携はどうするかという問題も出てくるのではないかと思う。この審議会でも第９期で、生涯学習は単に趣味的なものではなく、地域の課題解決の側面もあるべきという方向性を出した。それとの関りで、生涯学習センターを施設として、中心地として、どう位置付けていくかが大きな課題の一つかなと感じている

委員：　所属団体で部屋やホールを利用することや、講演会が催されたときに聞きに行くこともある。配布された資料３の上の図の中身を見ると、生涯学習センターに期待している事として、どれもその通りだと思うので、この部分が現状でどの程度できているかとか、これはやったほうがいいといったことを話し合えればいいと思う。

委員：　生涯学習センターで改善してほしい例としては、生涯学習センターに入るとアトリウムがあるが、そこが暗い。省エネなど理由があるかと思うが、もっと明るくしてほしい。また、生涯学習センターのパソコン室を使って市民向け講座を行っているが、パソコンの動作が遅く、スムーズに講座を進め難いという事などもある。また、先ほど話に出た相談機能であるが、生涯学習センターの窓口にこういう事がしたいと言えば、社会教育主事などが応じてくれる。しかしそういったことが生涯学習センターのウェブサイトなどに書かれておらず、物ごとの羅列だけになっており、見やすいとは言えないので、そこも改善していただきたいと思っている。

委員：　普段学校という狭い世界に身を置いているため、皆さんが生涯学習センターについてこんなにも考えているのだなと感心した。学校にいる時の地域との交流でやることは主に防災である。ほぼ防災の事しかやっていないが体験や知識などいろんなことを学んでいる。話を聞いている中で生涯学習ファシリテーターなどは、経験通して育つという側面もあると思うので、市の担当者と地域の協力者の両輪であると強いのではないかと思う。そして、生涯学習センターに宿泊機能があるのを今日初めて知ったのだが、料金はいくらぐらいなのか、交流したい団体があるが、距離が遠いため、いま分かれば教えて頂きたい。

事務局：　宿泊施設の利用料だが、部屋の種類によって違うが、参考に洋室の値段がお伝えすると、市内在住、在勤、在学または姉妹都市・友好都市の方で、大人１，６００円、子ども（中学生以下）８００円、そ

れ以外の方で大人２，４００円、子ども１，２００円となっている。いずれも食事なしの料金となっている。

会長：　窓口には社会教育主事の人もいるが、もしかしたら、市の職員や生涯学習センターの職員だけではなくて、何らかの形で相談を受けれる市民が上手くつながるような、一人に任せきりにならないような仕組みがあればという内容の話だったかと思う。

委員：　生涯学習センターの話だが、場所が行きにくいという話はこれまでも出ていて、講座の終わりが午後８時、９時なのにバスは７時で終わってしまう。そういったときに、バスの便を増やすとか、生涯学習センター巡回のバスを考えるといった提案が出てこないのは少し寂しい。提案が出たところでバス会社から人手の問題できないと言われても、団体を立ち上げて自分たちで何かやるかといったことが自発的に出てくる状態で、全体で盛り上げればいいが、場所ありきで考えてしまっているので、そこにもう一歩踏み込んだ形で考えるのが良いのではないかと思う。レストランに関しても、生涯学習センターに用がある人しか来ない、不便だからさらにそうなってしまっているというのが問題なのかなと思う。言い換えるとどこに問題があるかという事をみんなで一生懸命探した方が良いと思う。その中に、生涯学習センターのレストランに近所の人が昼食を食べに来ないというものが出てくる。しかし、文化センターでは、そば打ち教室があったり、男の料理教室があったりする。語学であれば団体を作って継続して、活動しているが、そば打ち教室などのＯＢはどこで何をすればいいのかという事になる。毎週水曜の昼は市民がそば打ちをして、生涯学習センターのレストランが蕎麦屋になるとかそういうような面白い仕掛けが自動的に回って行けばいいなと思う。文化センターでもそうだが、「物販はできない」ではなく、何か市民がやっているものを売ってみて、それが余ったから他の物お作ろうかなとか、そういうような状態で、貸館としても利用しながら活動が循環していくような仕組みがない。もう少し緩く活動を見守るという視点で利用するという仕組みがほしいと思う。

会長：　ハードの部分の改善も必要だが、今あるものをより活かすためには、使い方や規則などを見直すなど、まだまだ工夫ができるという意見だったかと思う。

委員：　我々がこれから議論しなくていけない焦点としては、生涯学習セ

ンターの在り方についてであるといきなり変わったので、どのように意見をオーガナイズしたらいいのか分からなくなっているのだが、我々のこの審議会は生涯学習についてのものである。その中で生涯学習センターの在り方について、今後の議論を方向性としては、使い勝手について、もっと深くやっていくのか、管理方式がなってないからそこを見直した方がいいという事も含めて議論していくのか、整理したいため、説明をしていただきたい

副会長：　出てきた意見は現状の問題に関する意見と、それを改善するという意味での意見があったかと思う。もう少し時間軸を伸ばしてみると、地域は縮退していくという事を前提にして考えていく必要がある。場所も不便になることを見込んで建てるという事は無い。ただ人も３０年たつとかなり変わってしまう。そういう将来の事も含めたうえで、話していければ良いのではないかと思う。もう一点、個人としてはこれまでも出てきているコミュニティスキルの市民へ涵養していくことで個々の問題に対処できるように意識を改善していくというのも一つの考え方であると委員の皆さまの意見を聞いていて感じたことである。

委員：　生涯学習センターの見直しはとても重要なことであると思う。その点については、記録にも残しているため、何らか形で答申にも載せていきたいと思う。ただ、今期の審議会については「地域人材の活用」というのが中心にある。そのことがなぜ必要かというところは資料３の「人づくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」につながるような地域人材を掘り起こして、育成し、使ってもらうために、生涯学習センターは何をできるかという点について次回は審議していきたいと思う。個人的な意見になるが、認知症を抱えた家族や、子育て中の方の相談窓口は既にあるかと思う。引きこもりも最近社会問題となっているため相談先があったりする。しかし、相談先がない問題を抱えている人もおおくいる。あるいはそもそも相談できるものだと思ってない人いるかもしれない。例えば、非正規で朝から夜まで働いていて、職場に人とのつながりがないといった暮らしをしている人も少ないと思う。これも社会的孤立として、最近社会問題化してきているが、まだまだ相談に行く先がない。その人たちが病気にかかってしまって仕事を休んだ時にもう誰も相談する人がいないと大変状況になってしまう。そうした時に地域が何を

できるかといったことも話していく必要があるのではないかと考えている。もちろんそこに集中して審議する気はないが、今の社会状況を踏まえての話題も必要ではないかと思っている。本日すでに様々な意見をいただいているので、それを基に次回の審議をしていきたいと思う。

６　その他

次回の審議会の開催時期について、令和４年１０月７日(金)の午前１０時から府中駅北第２庁舎３階会議室にて開催することで、了承を得た。